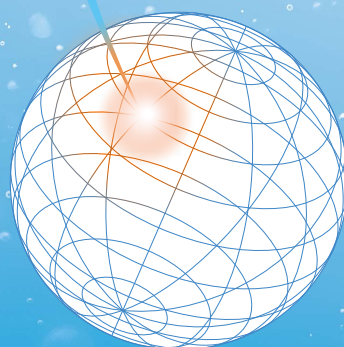


公益財団法人

豊田理化学研究所
アニニアルレポート

2025



SCIENCE AND TECHNOLOGY IN SOCIETY

社会のため 科学技術のため

TOYOTA PHYSICAL AND
CHEMICAL RESEARCH INSTITUTE
ANNUAL REPORT 2025



豊田 喜一郎からはじまる トヨタ先端基礎研究

豊田の研究は、1932年、豊田 佐吉の遺志を継ぎ、豊田 喜一郎が発刊した「豊田研究彙報」が本源です。

その後「研究と創造」の精神の基、豊田理化学研究所が創立され、20年後には豊田中央研究所、
そしてトヨタコンポン研究所、北米先端研究所が設立され、継承されています。

豊田理化学研究所：現在の位置付け

－ 助成で新たな研究人材を育成 －

豊田理化学研究所

1940年 豊田 喜一郎



喜一郎は、大いに学術を研究し産業の基本である「わが国独自の科学技術」を開発振興する想いで、1940年豊田理化学研究所を創立しました。その後、戦争など、社会や研究界の変化に時々対応する豊田理研のあり方を模索し、現在は研究助成による人材育成を柱としています。

－ 委託で次の研究テーマを創る －

トヨタコンポン研究所

1996年 豊田 英二・豊田 章一郎



トヨタコンポン研究所アニュアルレポート2024より

目先でなく、科学を常に根本から考える研究所で、現在は「何を研究するかを研究する」委託研究を柱としています。

－ 日本では やりにくい研究 －

北米先端研究所 TRINA

2008年 豊田 章一郎



TOYOTA USA: "Creating a Sustainable Mobility Society | 15 Years of TRINA's Achievements | Toyota"より

エネルギー・環境・安全に、交通社会を加えたテーマを、欧米の大学・研究機関と連携して先端研究に注力しています。

－ 自前研究でインベンション・イノベーションを興す －

豊田中央研究所

1960年 豊田 英二・石田 退三

社会とトヨタグループへの貢献のため、トヨタグループ9社を株主とし、基礎から応用まで幅広い自前研究をしています。

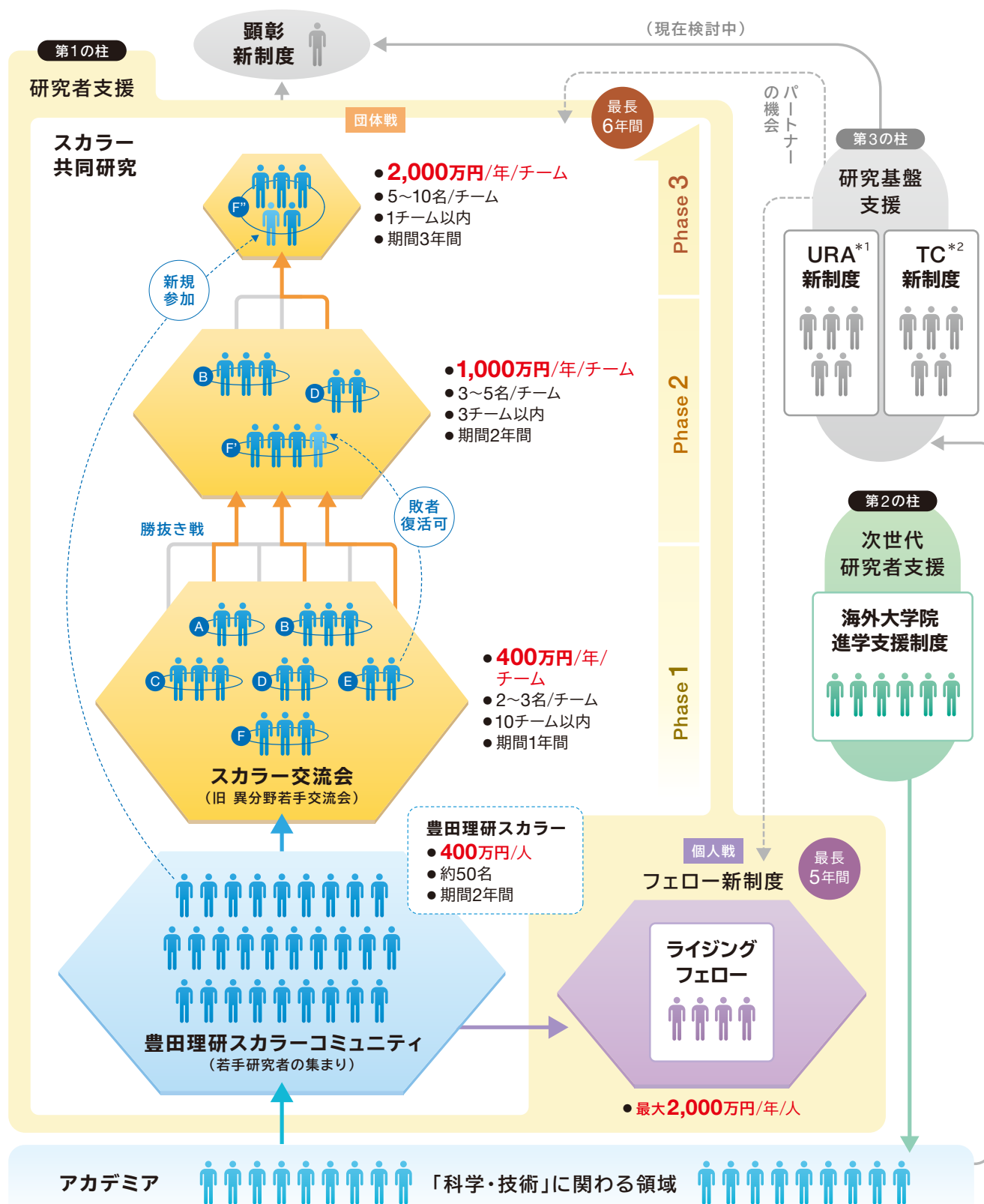


豊田中央研究所webサイトより

助成事業の全体像

豊田理研「未来」への研究助成の“型”づくり

トヨタ自動車を創業した豊田 喜一郎は、「我国独自の科学技術の振興開発を図り、学術・産業の発展に貢献する」理念を礎に、1940年財団法人豊田理化学研究所を設立しました。現在では公益財団法人として将来を見据え、科学技術の基礎や応用などの学術研究を推し進め、世界をリードする人材の育成を目的とした助成事業に取り組んでいます。



*1 URA: University Research Administrator *2 TC: Technical Conductor

URA 座談会

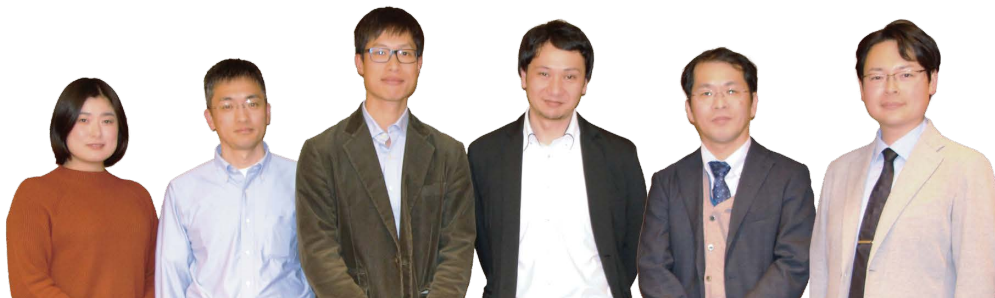
2026.1.23 Fri
ミッドランドスクエア

“研究と社会のつなぎ手”が望むサポートとは？ 現場の声から得るヒント

学術研究を推し進めるには、研究者だけでなく、URAの役割も重要となります。本座談会では、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学で活躍中の現役URAにご参加いただき、皆さんの現状をうかがい、支援のヒントを聴く座談会を開催しました。

URAとは

University Research Administratorの略。研究活動の活性化や推進を図るため、研究資金の獲得や、国内外との共同研究を含む研究プロジェクトの企画・マネジメント、産学官連携等による研究成果の活用促進などを担う人材。研究者および事務職員に並ぶ、第三の教職員とも呼ばれる。



▶ 各大学におけるURAの立ち位置

東北大学



上野 裕氏

東北大学 企画部 特任准教授 /
リサーチ・アドミニストレーター



Alan Yee 氏

東北大学 WPI-AIMEC 特任准教授 /
プログラムコーディネーター

東北大では全学組織に所属するURAと、研究所などの部局に所属する領域専門URAに分かれた体制がとられ、我々2人は後者。研究費採択前後のサポートや、研究の企画・コーディネートに加え、自身の研究を行っているURAもいます。

東京大学



中西 もも氏

東京大学
大学院農学生命科学研究科 准教授 /
東京大学
リサーチ・アドミニストレーター

東大にはURAという人事上の役職はなく、能力や経験を持つ人材を全学から認定してネットワークする独自の仕組み。本部に集約されていないことで、研究者により近い立ち位置でフレキシブルに活動できる点が特徴とされています。

名古屋大学



山口 淳氏

名古屋大学
学術研究・産学官連携推進本部
主幹URA



柴田 裕介氏

名古屋大学
学術研究・産学官連携推進本部
主任URA

名大のURAは、教員・事務職員と並ぶ第三の職種として早期から確立し、自身で研究は行わない決まり。全学組織となっているため、量子、宇宙、医学などの理系と文系の、多様な分野のURAと一緒に活動できるのが特長です。

京都大学



田上 款氏

京都大学 総合研究推進本部
リサーチ・アドミニストレーター(上席)

総合研究推進本部(KURA)のメンバーは、研究環境の最適化を実現する専門家です。「学術と社会の未来への貢献」を目的に、研究者とともに研究の深化と展開を共創する一歩踏み込んだ支援を目指しています。



▶ URAの現状

東北大学 上野

東北大学では国際卓越研究大学への認定を機にURAが大幅に増員されました。一方で、**業務の専門化・細分化が進み、URAという職種の魅力や役割を人材募集の場で十分にお伝えできていないように感じています**。また、私は教員時代から研究活動を加速させるためにさまざまな調整や企画に携わってきましたが、URAとして同様の支援を行おうとすると、実際には組織上の役割分担や権限の違いから難しさを感じる場合があります。

東北大学 Alan

肩書きより役割が重要で、役割が明確になる名称だと研究者から認知されやすいのでは。海外と比較すると、北米のURAが研究費の申請前後の業務中心であるのに対して、日本では企画や調整など広範囲にわたり研究に関与する点が特徴的です。組織のニーズに応える柔軟性や、情報へのアクセス向上は、どの組織のURAにも共通の課題だと思います。

名古屋大学 山口

名大のURAは本部組織に集約されているため、全員で情報を共有できるメリットがありますね。半面、**研究者から「何をしているか分かりづらい」とも言われることもあります**。早期から本部組織が発足し、学内でURAの認知度が高まったのは喜ばしいことですが、業務が集中するうえ求められる範囲も拡大し、現在の約50名でも足りないほどです。

名古屋大学 柴田

科研費等の資金獲得支援から産学連携、プロジェクト管理、特許、ベンチャー支援まで、**URAの業務範囲は広がっており、その定義や位置付けも各大学で異なります**。教員や事務職のように、URAの業務にも全国共通の定義があっていいのでは。また、URAの組織は歴史が浅く、それぞれの自律に任されている部分も多いです。

東京大学 中西

東大ではURAの所属がさまざまで業務内容にもかなりグラデーションがあり、URAスキル標準※では“その他”に分類されるような内容も多いです。**携わった仕事が論文などの形で可視化されないと、評価につながりにくいのも課題**。研究者が研究費を獲得するように、URAの実績や業務が評価され、助成される仕組みがあれば、大きな意味があると思います。

京都大学 田上

URAは“つなぐ仕事”なので、実際の業務はURAスキル標準の“間”にあることが多いです。例えば研究費支援の本来の目的は、研究費の獲得ではなく研究の発展に貢献すること。**“研究をどのように次につなげたか”が評価される仕組みや、URAが研究環境を改善するために使える資金などURAそのものを支援するプログラムがあると、さらにやりがいを感じます**。

※URAスキル標準：URAに必要とされる機能・業務や求められる能力について示した指標。人材育成の「ものさし」として活用することを目的に、平成25年度科学技術人材養成等委託事業「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備」（スキル標準の作成）において東京大学が主導して作成。「研究戦略推進支援業務」「プレアワード業務」「ポストアワード業務」の3つの中核業務とそれに関連する専門業務の、計22項目で構成される。

▶ 浮かび上がった共通の悩み

大学内での誤った認知

「なぜ研究をやめたの?」「もったいない」といった言葉をかけられるなど、研究者の道を諦めてURAになるものだと思われがちである。教員職の肩書きを持たないと動きづらさにつながる場合もある。

若手が魅力を感じづらいキャリア構造

大学院生もURAという職業をアシスタント的立ち位置と見ているのに加え、論文のように明確な成果物がないことが、若手が積極的な理由でURAのキャリアを選ぶ妨げとなる。

業務範囲の広さと評価の難しさ

大学により業務は多種多様で、それぞれの大学内でも業務範囲は非常に広い。その一方で、資金獲得以外の成果が正当に評価される仕組みが確立されていない。

TC座談会

2026.4.13 Mon
ミッドランドスクエア

研究を次のステージへ“導く”エキスパートの声を、支援のヒントに

高度な専門知識・技術により、研究を直接的に支える、大学の技術職員。研究内容と装置・設備の高度化に伴い、その役割はますます重要なものとなっています。東京科学大学、長岡技術科学大学、岡山大学、名古屋工業大学の技術職員の中からTC取得者に集まっていたいただき、皆さんの現状をうかがい、支援のヒントを聴く座談会を開催しました。

TCとは Technical Conductorの略。装置・設備に関する高度な専門知識・技術により研究活動を支援する「教室系技術職員」の中から、高度専門技術人材を養成するため、東京科学大学が2021年、産学官協働の体系的なカリキュラムによる革新的なオールジャパン人材養成システムである「TCカレッジ」を開講。コース受講による単位取得と論文の審査により、TCの称号が付与される。



各TCの経歴と専門性



歯車や超音波の研究に関する機械工作系の技術職員を経験してきました。大学のオープンファシリティセンターが発足した2020年からは、研究基盤戦略の立案を担当し、TCカレッジには構想段階から携わっています。

高橋 久徳氏 マネジメント系TC

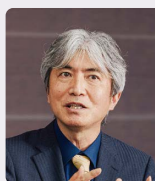
東京科学大学 リサーチインフラ・マネジメント機構 主任技術専門員
副カレッジ長、オールジャパン連携部門長
TCカレッジ マネジメント系TCコース担当
●専門分野：研究基盤戦略立案、機械工作全般



Siや金属・酸化物等を μm オーダーで加工する「マイクロプロセス」は、さまざまな技術の集合体で、私は成膜や評価・分析が専門です。2回の育児休暇をはさんで、15年にわたり一貫して専門性を追求しています。

佐藤 美那氏 マイクロプロセス系TC

東京科学大学 リサーチインフラ・マネジメント機構 技術専門員
●専門分野：マイクロプロセス技術、成膜技術、分析評価技術、衛生工学衛生管理者



NMR(核磁気共鳴)装置の営業職、他大学の技術支援員と研究職を経験し、世界最大となる超分子化合物の質量分析等に携わりました。その経験を、TCカレッジ物質分析系(構造解析)のコース設計に反映しています。

清 悦久氏 構造解析系TC

東京科学大学 リサーチインフラ・マネジメント機構 主任技術専門員
副カレッジ長、TCカレッジ カリキュラム担当
●専門分野：有機構造解析(核磁気共鳴、質量分析、単結晶X線回折)



大学では分析計測センターの装置利用や、学外からの遠隔分析支援、学生実験を担当しています。文部科学省が2026年に策定した「技術職員の人事制度等に関するガイドライン」のワーキンググループにも参画しました。

近藤 みずき氏 遠隔分析DX系TC

長岡技術科学大学 技術支援センター 主任副技術長
TCカレッジ 遠隔分析DX系TCコース担当
●専門分野：生物工学、遠隔分析、電子顕微鏡



電子顕微鏡の試料(動物組織や培養細胞)作成、観察補助、受託観察などを担当しています。研究への興味から技術職員となり、未経験から電子顕微鏡の技術を習得。TCカレッジの医工系コース設計にも携わりました。

塚野 萌美氏 医工系TC

岡山大学総合技術部 医学系技術課 技術主任
TCカレッジ 医工系TCコース担当
●専門分野：生物系電子顕微鏡、電子顕微鏡試料作製



大学卒業後、企業勤務を経て、母校の技術職員に転身しました。全学共用の分析センター配属となり、NMRの管理や依頼測定を担当しています。有機構造解析に必要な分析技術をより深めるためTCを取得しました。

瀧 雅人氏 物質分析系TC(構造解析)

名古屋工業大学 産学官金連携機構設備共用部門担当 技術専門員
●専門分野：NMR、低温、機器分析

● TC・技術職員への思い



オブザーバー 江端 新吾氏 TCカレッジ長

東京科学大学 理事特別補佐(総合戦略担当)、戦略本部 教授
博士(理学)

宇宙化学の研究に携わった後、URAに転身。その後、TCカレッジ開講を手がけた他、一般社団法人研究基盤協議会の代表理事として、「研究設備・機器の共用推進に向けたガイドライン」策定等に携わる。

研究者時代に何度も助けられた技術職員の地位を向上すべく、技術組織の問題に取り組んできました。単に装置を扱うのではなく、皆さんのように多様な技術・知識を組み合わせることで研究者の課題に応える人材のスキルを、見える化して次世代へ継承することを目的に、TCカレッジのコース設計をしました。皆さんがさらに思い切ってチャレンジし、活躍が認められる環境を整備したいと思っています。

▶ TC・技術職員の現状

東京科学大学 高橋

TCカレッジの運営側としては技術習得も当然のことながら、横のつながりを築く場として活用してほしいという思いがあります。全国の技術職員が専門分野を超えてつながり、各自の立場から意見や悩みを出し合う目的は実現しつつあります。また、全国の機関で言えることとして技術職員の後継者不足があり、どのような職種なのか学生などに広報することもTCの役割の一つと考えております。

長岡技術科学大学 近藤

技術職員は、学内で接する人が限られるので、TCとなって交流が広がることは成長につながります。一方で、学内での広報不足によるTCの認知度の低さも感じます。また近年、他大学において技術職員の課長職以上への登用が進んでいます。今後は事務職員と対等に渡り合えるよう、技術職員側もマネジメント視点を身につける必要があると危機感を持っています。

名古屋工業大学 瀧

名工大では、マネジメントの比重は低くても、技術者・専門家として課長級で活躍できる技術職員を増やしたいと考えています。ただ事務職員との間でポストと人件費を取り合うため、昇進機会が限られ、人材採用も後回しにされる懸念があります。学外の研究者と学内の装置をつなげる仕事に意義を感じ、ネットワーク拡大への意欲もありますが、悩みは評価。評価者が同じ技術職員でない、正しく評価されないと思います。

東京科学大学 佐藤

私は、技術支援以外の「何でも屋」的な業務が多く、技術支援に割ける時間が少ないことで、やむを得ず学生の研究を待たせてしまう事もあるのが悩みです。担当する装置の他に、全学共用クリーンルームの広報活動や利用者対応といった営業的・事務的な仕事と、学生の安全管理・指導も担当しています。研究者に伴走するため、自分の技術を高めることも必要です。

岡山大学 塚野

技術や知識を高めるためには、技術職員同士のつながりに加え、研究者との交流から得られる気づきや学びも大切だと感じています。そのため、機会があれば研究機関等の研究者の方々とも接点を持ちたいと考えています。また、電子顕微鏡未経験から、努力と周囲の支えを受けて成長できた経験を生かし、人材育成にも貢献していきたいです。

東京科学大学 清

TCカレッジの運営において、「新技術やイベント等の協同作業にワクワクできるような学び」を増やしていくことが今後の目標です。現場に目を向けると、例えば単結晶X線回折装置の担当者は私1人しかおらず、技術職員の「一人職場」が大きな課題となっています。TCカレッジを通じて全国の技術職員が強く結びつき、協力し合える体制を作りたいと考えます。

▶ 浮かび上がった共通の悩み

交流の機会が限られる職場環境

各大学にその装置の担当は1人がごく少数。TC以外の技術職員も含め、大学を超えてつながる機会が非常に重要。研究者や産業界とのつながり強化も望まれる。

認知度の低さによる後継者不足

「TC取得の立候補がない」「学生が技術職員の仕事を分かっていない」との声も。高度な人材の育成と後継者確保の両面で、TC・技術職員の業務の周知が必要。

技術職員の評価制度が未成熟

文部科学省の「技術職員の人事制度等に関するガイドライン」が策定されたばかり。事務職員との差の解消や、技術力が正当に評価される制度が、各組織の課題。

▶ 豊田理研に期待する支援の形

“交流”と“活躍の場”を広げるチャンス

東京科学大学 江端 教授

横のつながりは非常に重要ですが、技術部組織がない大学では、TCカレッジや交流の場への参加予算や承認を得にくい可能性があります。主催者からの招待があれば参加しやすいでしょう。また、例えば豊田理研のライジングフェローとTCが研究チームを組み、対等に議論しながら活動できる機会があれば、TCの活躍の場が一気に広がるはず。認知度向上策に加え、そのようなご支援をいただけるとありがたく思います。

豊田理研スカラー 2026年度スカラー

研究費用の助成とともに若手研究者のネットワーク「スカラーコミュニティ」を構築

研究費用の助成とともに、若手研究者のネットワークを構築する制度です。

豊田理研スカラーに採択された研究者はスカラーコミュニティのメンバーになります。
毎年「異分野若手交流会」で異分野のスカラーと交流できるほか、スカラー共同研究制度やライジングフェロー制度などの継続的な助成への応募機会を得られます。

詳しくは
こちら



● 2026年度 豊田理研スカラー採択者 (2026.4.1時点)

北海道大学

大学院工学研究院



岩井 愛
(助教)

大学院情報科学
研究院



ショオ リン
(准教授)

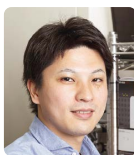
大学院理学研究院



宮岸 拓路
(助教)

東北大学

多元物質科学研究所



川脇 徳久
(准教授)

学際科学フロンティア
研究所



サド アアカンクシャ
(助教)

大学院工学研究院



周 偉偉
(准教授)

東北大学

大学院理学研究科



豊田 良順
(助教)

大学院工学研究科



牧浦 理恵
(教授)

大学院環境科学研究科



王 佳婕
(助教)

筑波大学

システム情報系



五十嵐 康彦
(准教授)

数理物質系



浦 朋人
(助教)

埼玉大学

大学院理工学研究科



高橋 朋子
(准教授)

千葉大学

大学院工学研究院



小島 駿
(准教授)

大学院薬学研究科



原田 慎吾
(准教授)

東京大学

大学院工学系
研究科



秋葉 貴輝
(助教)

先端科学技術
研究センター



岡村 嘉大
(准教授)

先端科学技術
研究センター



車 一宏
(助教)

大学院工学系
研究科



小池 太智
(助教)

東京大学

大学院理学系
研究科



島尻 拓哉
(助教)

物性研究所



高木 里奈
(准教授)

大学院理学系
研究科



谷藤 涼
(助教)

大学院工学系
研究科



前田 拓也
(講師)

東京科学大学

総合研究院
生体材料工学研究所



沖田 ひかり
(助教)

生命理工学院



小坂田 拓哉
(特任准教授)

東京科学大学

理学院

齊藤 馨
(助教)総合研究院 M&D
データ科学センター清水 秀幸
(教授)

東京理科大学

理学部

石川 孟
(講師)お茶の水
女子大学

基幹研究院

五十嵐 悠紀
(准教授)

名古屋大学

大学院工学研究科

久志本 真希
(准教授)

大学院工学研究科

路 姍
(講師)学際統合物質科学
研究機構納戸 直木
(特任助教)

名古屋大学

大学院理学研究科

三石 郁之
(講師)

京都大学

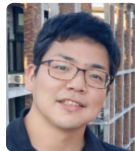
大学院工学研究科

清水 大貴
(助教)

大学院農学研究科

白石 晃将
(助教)

大学院工学研究科

田村 朋則
(准教授)京都工芸繊維
大学

分子化学系

外間 進悟
(助教)奈良先端科学
技術大学院大学

先端科学技術研究科

中内 大介
(特任准教授)

大阪大学

大学院基礎工学
研究科山西 絢介
(助教)

大阪公立大学

大学院理学研究科

山本 和樹
(講師)

兵庫県立大学

大学院工学研究科

田中 芹奈
(助教)

神戸大学

大学院理学研究科

三ツ沼 治信
(准教授)

広島大学

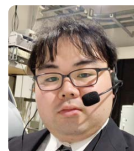
大学院先進理工学
科学研究科黒田 健太
(准教授)

九州大学

キラルソフト超物質
国際研究所中室 貴幸
(特任教授)

九州大学

大学院理学研究科

飯森 陸
(助教)

高等研究院

牛丸 理一郎
(准教授)

九州大学

大学院工学研究科

佐々木 陽一
(准教授)

大学院医学研究科

田村 友和
(准教授)マス・フォア・
インダストリー研究所廣瀬 雅代
(准教授)

九州工業大学

大学院情報工学
研究院谷口 彰
(准教授)

熊本大学

大学院先端科学
研究部徐 薇
(助教)※各大学の研究者は
50音順に掲載。

トヨタ産業技術記念館特別ガイドツアー & アイスブレイク

DAY 1

2025.9.2
Tue



豊田理研 異分野若手交流会[※]

2025.9.2 AM トヨタ産業技術記念館
9.2-3 名古屋:ミッドランドホール

新たな研究領域の創出に向けた 異分野間のコミュニケーション

若手研究者の育成や連携の促進を狙いとして、
スカラーコミュニティを対象に異分野若手交流会を開催しています。
異分野間の情報交換やネットワーク作りを支援し、
新たな研究領域の創出の機会を提供しています。

※本記事掲載当時のイベント名です。2026年度より「豊田理研スカラー交流会」に名称変更します。



交流会の様子は
動画をご覧ください



ポスターセッション

スカラー共同研究へ繋がるよう、ディスカッションを重ねます。研究の問題点や課題、アドバイスなどをメンターからも指導を仰げる貴重な機会です。

DAY 2

2025.9.3
Wed



研究テーマ紹介



懇親会



スカラー共同研究報告会

Phase1では研究の立ち上げを支援し、Phase2ではその中からより大きな成果が期待できるチームを選んで、**継続的かつ集中的な支援**を行います。Phase2に向けて新たなメンバーの追加加入も可能です。



● 2026年度 豊田理研スカラー共同研究 Phase1

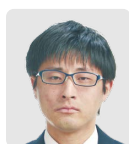
共同研究 テーマ

超分子化学と光化学の融合に基づく生体内光分子構築と 薬効制御への応用

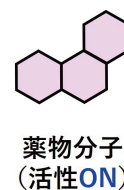
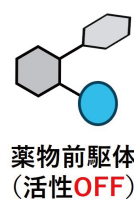
本共同研究では、独自に開発した超分子化合物群と生体適合性の光反応を有機的に組み合わせることによって、**薬の活性を精密に光制御するための新たな概念実証に挑戦**します。



岡村 秀紀
助教
岡山大学



久野 尚之
助教
広島大学



共同研究 テーマ

光熱変換タンパク質と磁性ナノ粒子による局所温度の制御・定量と 生体分子機能の操作

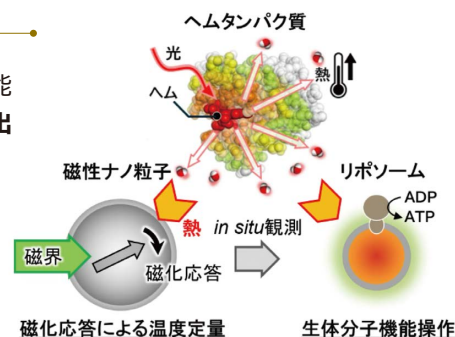
ヘムタンパク質の光熱変換による局所温度上昇を利用した生体分子機能操作と、磁気緩和を用いた非侵襲的温度計測を統合し、**光入力から機能出力までを定量的に結び付ける新規手法を確立**する。



大友 章裕
助教
京都大学



大多 哲史
准教授
静岡大学



共同研究 テーマ

分子設計×哺乳類細胞バイオリアクター×マイクロ流路DDSによる 細胞内侵入型RAS阻害タンパク質の創出

分子設計・哺乳類細胞合成・マイクロ流路DDS化を統合し、**細胞内侵入型RAS阻害タンパク質の合成系確立と、抗原性・血中動態を改善した改良体を創出し、がん治療薬としての実用化を進める**。



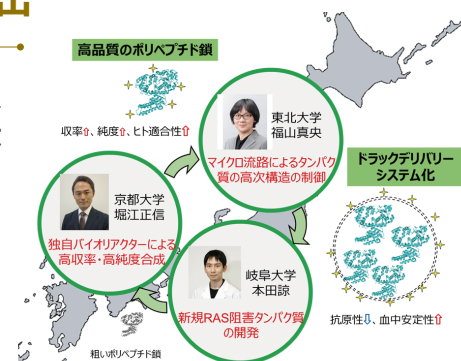
堀江 正信
京都大学 助教



本田 諒
岐阜大学 准教授



福山 真央
東北大学 准教授



ステップ1

異分野若手交流会参加をキッカケに分野を超えた共同研究9テーマがスタート

スカラー間に生まれた異分野の若手研究者同士の連携を支援し、新たな研究の潮流を生み出すスカラー共同研究制度です。

共同研究
テーマ

大規模ペプチドミクス計測基盤で拓く植物分泌ペプチドームアトラス

極微量サンプルに特化した超高感度プロテオミクスに、生化学・分子遺伝学を組み合わせ、植物科学の未解のフィールドである**機能的ペプチドホルモンの網羅的な同定と機能解明**を進めます。

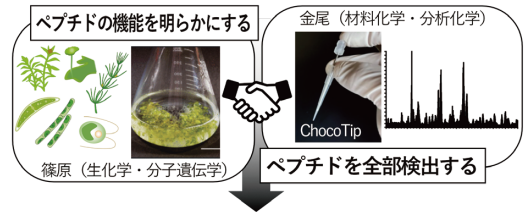


京都大学
助教 金尾 英佑



福岡県立大学
准教授 篠原 秀文

多様な植物がペプチドを産出・機能をもつか知りたい！
ペプチドを取り逃がす、全部検出・同定したい！



植物横断的なペプチドホルモンの機能多様性の解明

共同研究
テーマ

エストロゲン受容体を標的とした転写制御分子クリップの創製

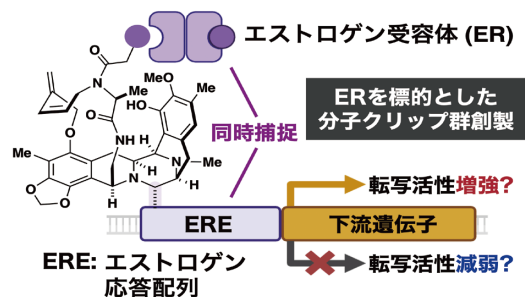
エストロゲン受容体／DNA複合体に結合する新分子(分子クリップ)を創製し、**エストロゲン依存性転写の精密制御基盤の確立**を目指します。



九州大学
教授 松島 綾美



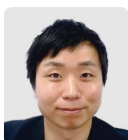
東京大学
助教 谷藤 涼



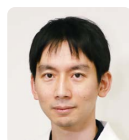
共同研究
テーマ

大規模プロテオーム解析と超高感度シード増幅アッセイによる神経変性疾患タンパク質凝集体の理解と診断法への応用

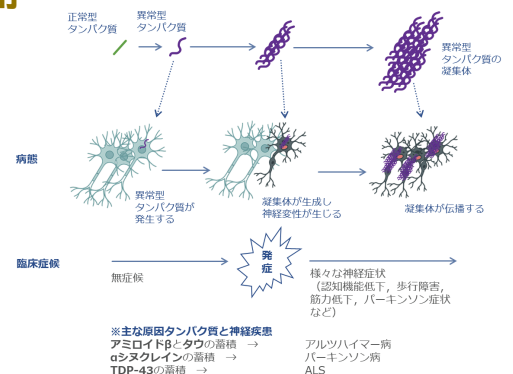
質量分析によるプロテオミクスと、超高感度試験管内 seed amplification assay技術を組み合わせ、脳内に蓄積するタンパク質凝集体の大規模解析を行い、その**形成原理の解明と診断・治療法の開発**を目指します。



京都大学
助教 金尾 英佑



岐阜大学
准教授 本田 諒



1チーム

金額 400万円/年
期間 1年間

共同研究
テーマ

超音波を用いた革新的細胞製造プロセスの実現

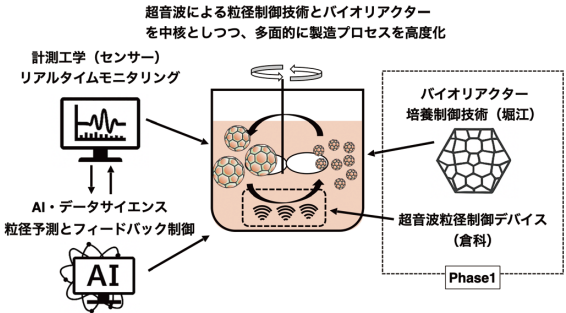
超音波技術と培養工学技術を融合し、ヒトiPS細胞の三次元攪拌培養における細胞集塊サイズを非接触かつ精密に制御することで、**高品質な細胞の大量安定供給を可能にする革新的製造プロセスの確立を目指す。**



堀江 正信
京都大学 助教



倉科 佑太
東京農工大学 准教授



共同研究
テーマ

リグニン由来アルツハイマー病治療薬のためのクラウドベースのインシリコ創薬プラットフォーム

私達は豊富な再生可能資源由来の生物活性化合物の合成と、誰もが利用できるクラウド型創薬探索プラットフォームの導入により、**アルツハイマー病治療薬のための有望な候補物質開発**を目指します。



ピンチエラ
京都大学 講師



ヘンファサト
筑波大学 助教



共同研究
テーマ

蛋白質凝集の構造多型形成機構を解明する統合的分子解析手法の開発

粘弾応答性蛍光プローブ、マイクロ水滴操作、Rheo-NMRを統合し、蛋白質凝集の構造多型が形成される分岐メカニズムを原子分解能で解明することで、**疾患の診断や阻害剤開発の基盤を構築**します。



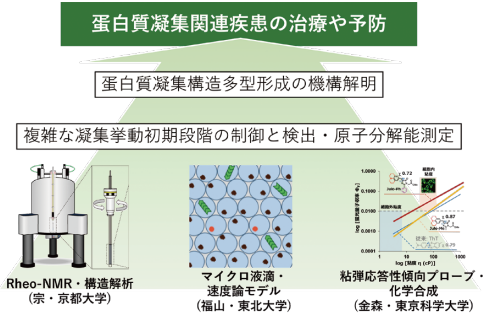
宗 正智
京都大学 助教



金森 功吏
東京科学大学 助教



福山 真央
東北大学 准教授



豊田理研スカラー共同研究

Phase **2** 1st Year

ステップ2 Phase1から更に大きな進展が期待できる テーマについてPhase2へ移行(2年間)

- Phase2では助成金の追加、メンバーの補充等を行い、
■異分野連携型「新研究領域」の創出
■グループリーダーの育成 ■優秀な若手研究者間の人材ネットワークの構築 を目指していきます。

●2026年度 豊田理研スカラー共同研究 Phase2(1年目)

共同研究
テーマ

マイクロ流路デバイスを用いたセルフリータンパク質進化

チーム
リーダー



寺坂 尚紘
東京科学大学
特任准教授

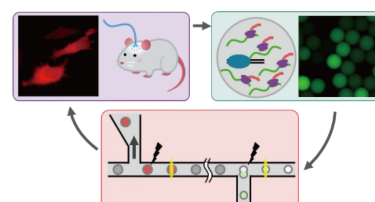


磯崎 瑛宏
立命館大学
准教授



那須 雄介
台湾中央研究院
アシスタント
リサーチフェロー

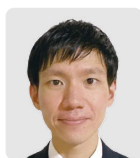
二点測定ドロップレットスクリーニングと無細胞翻訳系を用いた機能性分子の迅速創出系を構築します。Phase2では神経細胞の活動を可視化する蛍光タンパク質プローブの創出を目指します。



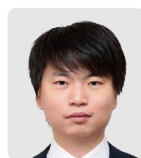
共同研究
テーマ

赤外レーザーを用いた電気化学反応制御法の開発

チーム
リーダー



森近 一貴
東京大学
助教

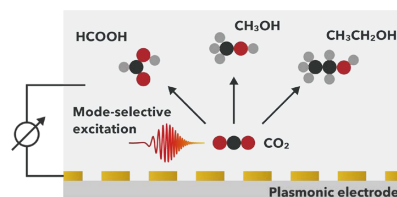


鄭 サムエル
筑波大学
助教



浦谷 浩輝
京都大学
助教

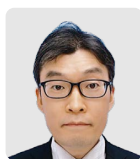
炭素循環社会の実現に向け、光科学・電気化学・量子化学計算の融合により、モード選択的な振動励起による自在な反応制御技術を創出します。



共同研究
テーマ

合成化学とゲノム生物学の融合による化学的遺伝子制御法の基盤技術開発

チーム
リーダー



金森 功吏
東京科学大学
助教



河添 好孝
九州大学
助教



辻岡 洋
福島県立医科大学
教授

合成化学・ゲノム生物学の融合で得た知見をin vivo生物学へ展開し、人工核酸を用いた遺伝子制御やゲノム標的ケミカルバイオロジー分野の開拓に挑みます。



● 2026年度 豊田理研スカラー共同研究 Phase2 (2年目)

共同研究
テーマ

**イオン伝導性ガラスを用いた超小型人工衛星に搭載可能な
タンクレス固体推進機の開発**

チームリーダー



大幸 裕介
名古屋工業大学
准教授



渡邊 保真
豊田工業大学
准教授



田港 聡
三重大大学
助教

初年度成果で放出イオン電流は10,000倍以上に向上しました。Phase3に向けて名工大、豊田工大、三重大が連携して全固体イオンエンジンの推力発生を達成します。

衛星打ち上げ・軌道遷移の実証!!



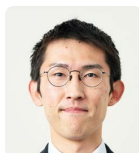
共同研究
テーマ

**排熱有効利用システムに向けた熱電と
蓄電のデバイス性能向上**

チームリーダー



出浦 桃子
早稲田大学
准教授



引間 和浩
東京都立大学
准教授



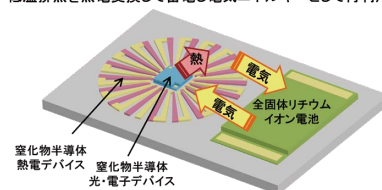
石部 貴史
大阪大学
講師



田港 聡
三重大大学
助教

排熱利用技術を実現するため、熱電と蓄電の融合を目的としており、材料・デバイスの両面から熱電と蓄電の性能向上に取り組んでいます。物理と化学の両方の観点から現象理解を目指しています。

「排熱有効利用システム」
低温排熱を熱電変換して蓄電し電気エネルギーとして再利用



共同研究
テーマ

**しなやかさに着目した
血管老化モデルの構築**

チームリーダー



杉山 夏緒里
防衛医科大学 助教/
富山大学 客員准教授



清水 一憲
名古屋大学
准教授



大多 哲史
静岡大学
准教授



三浦 理紗子
京都大学
助教

医化学、生物工学、計測工学、生体材料工学が専門のメンバーで、in vivoマウスモデルとin vitro組織モデルの血管の“しなやかさ”を同一の指標で評価し、生体模倣システムを構築することを目指す。



ターゲッティング磁性ナノ粒子 → 磁気特性を用いた粘弾性計測

新たな評価基準による
生体模倣システムの構築

Phase **3** 1st Year

1チーム

金額 **2,000万円/年**
期間 **3年間****ステップ3 新たな研究領域を創出し、先端的な研究分野を育てる**

Phase2を2年間実施後は、更に大きな進展が期待できるテーマについてPhase3へ移行します。
分野の壁を越えた革新的な挑戦や、共同研究ならではの相乗効果などを期待します。

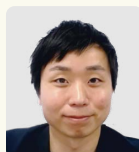
● **2026年度 豊田理研スカラー共同研究 Phase3（1年目）**共同研究
テーマ**マルチモーダルイメージングの統合解析による
薬物動態アトラスの構築****Atlas of Pharmacokinetics via Integrated
Analysis of Multimodal Imaging****異分野融合で切り拓く薬物動態研究**

本共同研究では、薬物が脳内のどこに到達し、その場でどのような分子応答を引き起こすかを、薬物・代謝物・タンパク質の空間情報として統合的に捉え、薬物動態アトラスを構築します。複数の計測・解析技術を融合することで、薬物の到達部位と局所分子応答の関係を調べます。創薬研究に資する新しい評価基盤を創出するとともに、薬剤作用の理解や最適化につながる、新たな視点を提示することを目指します。

三群連携で推進する研究体制

本研究の強みは、異なる専門性をもつ7名の研究者が、それぞれの専門知識と技術を生かしながら有機的に連携して研究を進める点にあります。薬物合成・評価、空間データ計測、データ解析の三群が複数のサブプロジェクトに取り組み、各段階で得られた成果を相互に結び付けることで、単独の分析手法や研究分野では得がたい知見を獲得し、最終的に薬物動態アトラスの構築へと発展させます。

チームリーダー

**大塚 洋一**
大阪大学
准教授**小山 聡**
名古屋市立大学
教授**古山 浩子**
岐阜大学
准教授**本田 諒**
岐阜大学
准教授**杉山 夏緒里**
防衛医科大学 助教/
富山大学 客員准教授**金尾 英佑**
京都大学
助教**谷地村 敏明**
東北大学
講師

ライジングフェロー

先端研究分野を世界的に牽引していく研究者を育てる

過去に豊田理研スカラー採択の実績がある者の中から、活発な研究活動を実施している新進気鋭の研究者、将来一流研究者としての活躍が期待される者を「ライジングフェロー」としてサポートしています。研究内容のみならず、先端研究分野を世界的にリードすることが期待される人物面も重視しています。

項目	ライジングフェロー
助成形態	所属大学を通じた研究助成
助成金額	最大2,000万円／年／人
助成期間	最長5年間

詳しくは
こちら ▶



● 2026年度 豊田理研ライジングフェロー採択者

研究テーマ名

体内が“薬の製造プラント”となる未来型医療の実現

体内で薬をつくる新しい医療基盤と創薬手法の開発

体の中を“薬の工場”に変える——そんな新しい医療の可能性に取り組んでいます。これまでの薬は外から投与するのが一般的でしたが、本研究ではゲノム編集技術を用いて、体内の細胞に治療用タンパク質をつくらせます。一度の治療で長く効果が続く仕組みの実現を目指すとともに、体の中で薬の働きを評価する新しい創薬の基盤づくりにも挑戦しています。基礎研究と応用研究の両面から、その実現可能性を丁寧に検証していきます。

体内産生型バイオ医薬の実用化に向けた基盤構築への挑戦

「体の中で薬など機能する分子をつくる」という新しい考え方をもとに、生命の仕組みをより深く理解し、自在に活用するための基盤技術の確立を目指しています。生体内で分子を安定して働かせるための設計原理や制御手法を明らかにしながら、その有用性を丁寧に検証していきます。今後は、さまざまな応用可能性を見据えつつ、長期的な視点で社会や科学の発展に貢献できる基盤づくりに取り組んでいきます。



意気込み
コメント
動画はこちら ▶



鈴木 啓一郎 氏

大阪大学 大学院基礎工学研究科 教授

● 2025年度 豊田理研ライジングフェロー採択者

研究テーマ名

量子幾何学非対角輸送応答の開拓

打田 正輝 氏

東京科学大学 准教授



多様な物質群での測定に基づく横断的かつ定量的理解の進展

本研究では、当グループが発見した面内異常ホール効果を非対角輸送応答として位置づけ、その新規性を明確化するとともに、固体中の電子波動関数が有する幾何学的性質に基づく発現機構の解明や、対称性に立脚した材料探索を進めております。本年度は、多様な物質群において当該応答を横断的に検証し、その定量的理解を進展させました。さらに、豊田理化学研究所との共同により2件のプレスリリースを実施し、研究成果の社会的発信にも努めました。

● 2024年度 豊田理研ライジングフェロー採択者

研究テーマ名

ハイブリッド擬天然物ペプチド戦略の推進

後藤 佑樹 氏

京都大学 教授



独立後初論文&学振賞受賞

ライジングフェローへの採択とほぼ同時に京都大学で研究室を立ち上げましたが、本年度は独立後初となる論文を発表することができました。また、これまでの研究内容をご評価いただき、第22回日本学術振興会賞を受賞いたしました。これらの成果や栄誉は、日々ともに研究を進めてくれている研究室メンバー・共同研究者の皆様、そして豊田理研をはじめとする各種研究支援のおかげです。改めて深く感謝申し上げます。今後も独自性と新規性に富む機能性ペプチドの創出を目指し、オリジナルの着想を大切にしながら研究を推進してまいります。

● 2024年度 豊田理研ライジングフェロー採択者

研究テーマ名

生体分子アンサンブルによる機能性核酸の開発と 創薬基盤プラットフォームの構築

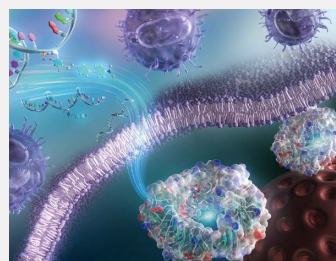
朴 昭映 氏

東京科学大学 准教授



化学修飾核酸による細胞機能制御と可視化

本プロジェクトでは、化学修飾核酸を設計・合成し、分子認識、細胞機能制御、細胞内相互作用の可視化への応用を目指しています。最近では、蛍光を発する免疫応答性核酸を開発し、免疫活性を制御するとともに、細胞内における免疫関連タンパク質との相互作用の可視化に成功しました。また、分子ローター型蛍光核酸を利用することで、がん細胞を選択的に可視化できることを報告しました。現在は、化学修飾核酸を基盤として人工酵素を開発するとともに、免疫細胞の機能を制御できる新たな核酸誘導体の開発を進めています。



● 2024年度 豊田理研ライジングフェロー採択者

研究テーマ名

アニオンの複合化で拓く固体イオニクスの新フロンティア

大野 真之 氏

東北大学 准教授



複雑なイオン伝導性マルチアニオンガラスの 設計指針探索を推進

本年度はハロゲンと酸素の協奏がもたらすマルチアニオンガラス電解質内のイオン輸送機構の解明と、その設計指針の提唱を中心に成果の発表を行いました。2026年度は、当初の構想と現在の展望の重なりとズレを見極めながら、より面白く、より知りたいと思うことに注力していくことを目標として掲げます。東北大に移籍してから今年で三年、想定を上回る速度で研究環境の整備とチームの構築を進められたのは、ライジングフェロー助成の賜物です。残りの期間も支援に胸を張れる研究活動を展開していきます。

HPの
RESEARCHER
STORIES
Episode-1
をご覧ください



トピック

日本で活動している女性研究者として、 朴 昭映先生が韓国大統領に謁見しました。

2026年1月、韓国大統領が来日された際、領事館からのご招待を受けて、
日本で活動している女性研究者として参加させていただきました。
こうした機会をいただけたのも、豊田理研のご支援のおかげだと感じております。

当日は意見を述べる機会もあり、日韓の科学者交流がより活発になるよう、
政府にも関心を持っていただければという提案をさせていただきました。

研究はもちろんですが、アウトリーチ活動を通じて社会にも貢献できるよう、
これからも努力していきたいと思っております。

朴 昭映



○朴先生は、2列目大統領夫人の右後ろ

提供元：駐大阪大韓民国総領事館

若手人材育成事業

海外大学院進学支援

科学技術分野における国際的な活躍を目指す若手研究者の海外大学院進学・博士号(Ph.D.)取得を支援しています。

本制度が目指す、グローバルな視点を持つ次世代研究者の育成や、国際的な研究ネットワークの構築が未来の科学技術の発展に貢献することを願い、その留学を助成しています。

詳しくは
こちら



● 海外大学院進学支援コース 2025年支援開始者



是非、自己紹介動画をご覧ください

STUDENT'S VOICE



海外生活の
紹介動画



奥田 航大 さん

- 留学先: エコール・ポリテクニック大学 (フランス)
- 留学予定期間: 2025年9月～2029年8月
- 応募時所属: 東北大学 経済学部経済学科

モンテカルロ法やベイズ統計学に対する計算に興味があります。特に「次の為替は1ユーロが183.37円」ではなく「90%の確率でいくらからいくらまで」といった、確率的な解釈が可能な形で区間を出すことで予測値や効果量の不確実性を定量化する方法や、そのための計算の研究をしています。今年は授業が主ですが、その分仲良くなれる学生も多く、周囲の影響を受けて鶏を捌いたり、ティラミスを作ったり、スポーツをしたり、歴史に思いを馳せています。



STUDENT'S VOICE



海外生活の
紹介動画



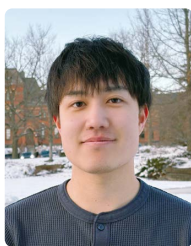
永島 来悟 さん

- 留学先: カールスルーエ工科大学 (ドイツ)
- 留学予定期間: 2025年7月～2028年8月
- 応募時所属: 東京大学 物理学専攻

2025年7月からドイツのKarlsruhe Institute of Technologyで物理学の博士課程に所属しています。理論物理学という紙とペン、数式処理ソフトやプログラミングなどを駆使して物理を理解する分野の中でも、物性物理学というモノの性質に焦点を当てた研究をしています。現在は特に、超伝導という物質の電気抵抗がゼロになる現象におけるトポロジカルな性質について理論的に探究しています。研究以外では友人とハイキングをしたりクリスマスマーケットに行くなど、充実した毎日を送っています。



STUDENT'S VOICE


 海外生活の
紹介動画


幅 優斗 さん

- 留学先: コーネル大学 (アメリカ)
- 留学予定期間: 2025年9月~2030年8月
- 応募時所属: 九州大学 機械航空工学科

コーネル大学で生物の動きから着想を得た生物模倣ロボットの研究に取り組んでいます。特に、水中を魚のように効率よく動くロボットや、農業や宇宙環境で活躍できる柔らかいロボットの開発を行っています。私の研究の特徴は、ロボットをただ動かすのではなく、変化の大きい環境の中でも安定して動作し続けられる仕組みの実現を目指している点にあります。研究以外では、ハイキングやスキーなどのアウトドア活動を通じてリフレッシュしています。



STUDENT'S VOICE


 海外生活の
紹介動画


伏見 宗太郎 さん

- 留学先: カリフォルニア大学 サンディエゴ校 (アメリカ)
- 留学予定期間: 2025年9月~2030年9月
- 応募時所属: 京都大学 機械システム学専攻

カリフォルニア大学サンディエゴ校のMechanical and Aerospace Engineering修士課程に在籍しています。強化学習を用いた制御の安定性保証について研究しています。AIでロボットを動かす際、学習したことのない環境においてもロボットは安全に動くのか、といったような内容です。サンディエゴは自然豊かなところで、休みの日にはビーチに行ったりハイキングをしたりして過ごしています。気候も良く、研究には理想的な環境だと思います。



STUDENT'S VOICE


 海外生活の
紹介動画


阿江 伸太郎 さん

- 留学先: オックスフォード大学 (イギリス)
- 留学予定期間: 2025年10月~2029年9月
- 応募時所属: 東京大学 物理工学専攻

オックスフォード大学理論・物理化学研究所で2025年10月から博士課程を始めました。量子化学のための量子アルゴリズムの開発を行なっています。特に、量子系が環境と相互作用している開放量子系を研究しており、分子の中の電子の振る舞いを解き明かそうとしています。量子化学と量子情報の二人の専門家の方から指導を頂いており、恵まれた環境で研究ができています。研究外の時間ではスカッシュをしたり、弁論団体でディスカッションをしたりしています。



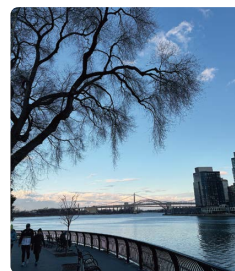
STUDENT'S VOICE


 海外生活の
紹介動画


讃井 彩夏 さん

- 留学先: コーネル大学 (アメリカ)
- 留学予定期間: 2025年9月~2030年9月
- 応募時所属: 慶應義塾大学 環境情報学部

2025年9月からコーネル大学のWeill Cornell Graduate School of Medical Sciencesで、生物統計学とデータサイエンスを専攻しています。もともと微生物や公衆衛生について興味があり、夏学期からは、ウイルスに対する免疫の遺伝的な違いが、乳がんなどの疾患リスクと関連しているかを調べる研究に取り組む予定です。異なる分野を横断する研究に挑戦し、将来的には、公衆衛生分野で科学的知見を社会実装に繋げる研究者になることを目標にしています。学生アンバサダーとしての活動も行っており、学部のSNSアカウントのコンテンツ作りや入学希望学生へ向けた対談セッション、教育チームとの意見交換などを担当しています。



学術談話会

豊田理研懇話会

「最先端で活躍されている著名な先生をお招きして難しいことをやさしく話していただく」セミナーを開催しています。

TOYOTA
RIKEN
SEMINAR
CASE. 1

2025
6.9
Mon

量子から考える ～私たちはどこから来て、どこへ向かうのか～ 量子テレポーテーションを用いた 大規模光量子コンピューター (トヨタコンボン研究所共催)



古澤 明氏 東京大学大学院 工学系研究科 教授

今、第二次量子革命の時代を迎えている。20世紀初頭に築かれた量子力学の理論は、半導体、レーザー、核磁気共鳴など強力な技術を生み出した。第一次量子革命である。産業界がその成果に酔いしれる間、量子サイエンスは着実に成長を遂げ、今また新たな地平が切り拓かれた。量子トンネル効果、量子もつれ、量子重ね合わせ…量子固有の現象を直接利用する時代～第二次量子革命～の到来である。量子は、トヨタグループにとっても、もはや単なる「不思議な世界」ではない。量子という新たな帆を掲げる時代の荒波を、あなたはどう乗り切るか。



TOYOTA
RIKEN
SEMINAR
CASE. 2

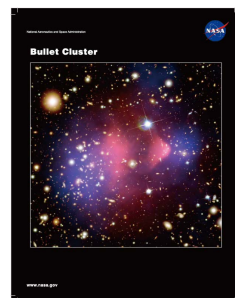
2025
7.28
Mon

ダークマターの正体を探る Searching for the nature of dark matter



村山 斉氏 東京大学 国際高等研究所 カブリ数物連携宇宙研究機構 特別教授・浜松プロフェッサー
カリフォルニア大学バークレー校マクアダムズ冠物理学 教授

ダークマターは宇宙にある未知の物質で、私たちの身の回りのものを作っている原子ではできていません。星や銀河の運動から、望遠鏡では見えない物質があり、宇宙の物質の8割以上を占めるということがわかったのです。一方私たちが知っているどんな物質もダークマターを説明できないこともはっきりしています。しかもダークマターがないと、星や銀河、私たちは生まれなかったのです。そのダークマターをどんな戦略で調べているのか、探索に使われる技術や、研究を立ち上げる苦労も交えて、今の研究の最前線についてお話しします。



境界を超える価値創造のデザイン

Design for Creating Value Beyond Boundaries

イグ・ノーベル賞
2022
「工学賞」
受賞

松崎 元氏 千葉工業大学 創造工学部 デザイン科学科 教授、一般社団法人フェーズフリー協会 理事

機能と形態、使用時と非使用時など、デザインは二元論的に捉えることで理解しやすくなる一方、使用者の状況や使用環境においては、両者を明確に分断することはできず、それぞれ連続的な関係性を持っている。本講演では、まずイグ・ノーベル賞2022 工学賞を受賞した「円柱形つまみの回転操作における指の使用状況に関する研究」を起点に、人が無意識に行う操作と設計との関係について紹介する。さらに、これまでに実践してきた家具、寝具、靴、折り畳み自転車などのデザインを通して、相反する状態や機能を融和する考え方を例示する。後半には、近年注目されている日常時と非常時の連続性に着目した「フェーズフリー」の概念とその可能性について、デザインの視点から考察する。

つまみの回転操作と指の使用本数



物性談話会

詳しくは
こちら名古屋大学
NAGOYA UNIVERSITY

物性談話会は、東海地方の物性物理学研究者の啓発を図ることを目的として、名古屋大学と共催で1963年から開催しています。2025年度は8回の談話会を対面とオンラインで開催し、通算の開催回数は2026年3月末で453回になりました。

2025 6.3 Tue

しなやかな植物組織の
ソフトマター物理学東京大学 大学院農学生命科学研究科
准教授 山口 哲生 氏

2025 7.16 Wed

量子力学から量子産業まで：
量子コンピュータを中心に法政大学 情報学部
教授 川畑 史郎 氏

2025 7.30 Wed

量子スピンの理論

沖縄科学技術大学 (OIST)
教授 Nic Shanon 氏

2025 7.31 Thu

超強靱ゲルの物理学

東京大学 大学院工学系研究科
教授 酒井 崇匡 氏

2025 10.21 Tue

データ科学による第一原理計算の拡張：
結晶構造探索と液体の誘電率計算を例に東京大学 大学院理学系研究科
教授 常行 真司 氏

2025 10.27 Mon

多体系の量子ダイナミクス
としての非平衡統計力学慶應義塾大学 理工学部物理学科
准教授 森 貴司 氏

2025 10.31 Fri

ジャム固体の粘弾性
ーガラスとマヨネーズをつなぐ東京大学 大学院総合文化研究科
准教授 池田 昌司 氏

2026 1.9 Fri

エニオンの観測・制御実験

東京大学 物性研究所
准教授 橋坂 昌幸 氏

分子科学フォーラム

詳しくは
こちら大学共同利用機関法人 自然科学研究機構
分子科学研究所
Institute for Molecular Science

分子科学フォーラムは、分子科学の発展を希求する幅広い研究者に討論の場を提供する事を目的に、分子科学研究所と共催で1996年から開催しています。2008年からは、一般市民も対象にした公開講座としています。2025年度は、4回のフォーラムを開催し、通算の開催回数は2026年3月末で146回になりました。

2025 7.10 Thu

観ることで広がる
触媒の世界名古屋大学
教授 唯 美津木 氏

2025 11.13 Thu

「ねじれた光」で見る
左と右、鏡写しの世界分子科学研究所
教授 岡本 裕巳 氏

2026 1.29 Thu

分子を使った光電変換の科学
～革新的発光・発電子子の
実現に向けて～東京科学大学
フロンティア材料研究所
准教授 伊澤 誠一郎 氏

2026 3.14 Sat

機構シンポジウム 特別講演

元素から紐解く宇宙と生命のものがたり

「僕たちは“星屑”から
生まれた？」自然科学研究機構
国立天文台
上席教授 渡部 潤一 氏「最古の体内時計が日の出を
知らせた約22億年前のある日」自然科学研究機構
分子科学研究所
教授 秋山 修志 氏

フェロー研究活動

フェロー研究報告会

第37回

非従来型超伝導への挑戦

日時 2026年2月2日(月) 13:30～14:10

会場 井口ホール + オンラインLIVE配信



講演者

前野 悦輝 フェロー



豊田理研フェロー交流会

交流会

日時 2026年3月17日(火)・18日(水)

会場 豊田自動織機「幡豆アカデミー」



豊田理研国際ワークショップ

The 17th Toyota Riken International Workshop on “Ruthenates and Emerging Quantum Materials (REQM2025)”

日時 2025年12月2日(火)～6日(水)

主催者 前野 悦輝 フェロー
(豊田理研-京大連携拠点 連携拠点教授)

会場 京都大学 国際イノベーション棟
シンポジウムホール



オフィスリニューアル

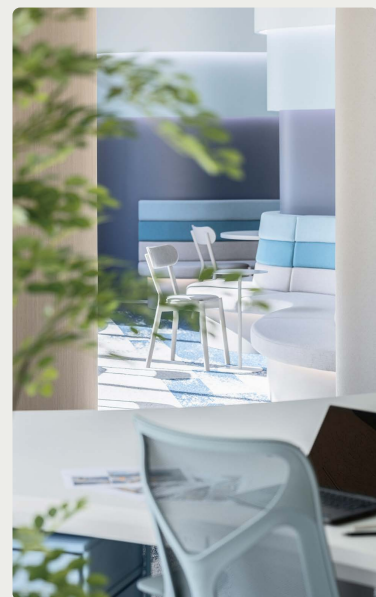
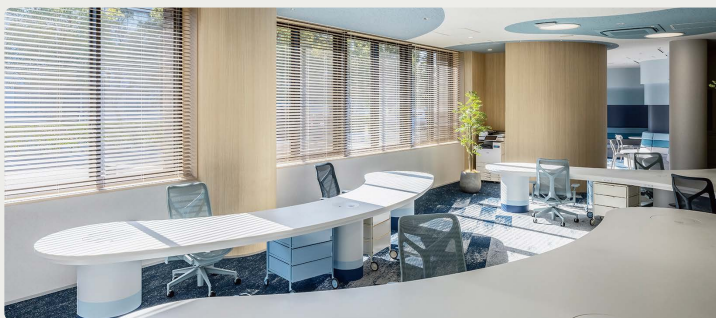
Water Flow Office

水の流れをイメージし、キーワードは「自然との共生」

コミュニケーションを取りながら、互いに情報を得たり、頭を切り替え気分を変えて
新たな発想・アイデアをもたらすCommunication areaと
集中・個々のクオリティを発揮するOffice area。

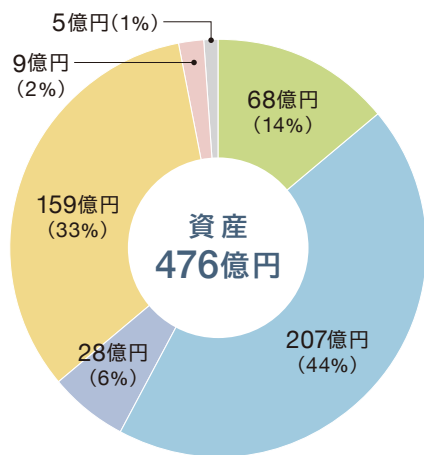
〈視覚・聴覚・触覚・嗅覚〉を刺激し、緑化、照明やリラックスmusicなど、
職場に来ることが楽しくなるような今までにない働きやすさを追求した空間を実践。

地産地消を取り入れ、愛知県産のスギ木材を一部使用して
自然との共生をコンセプトに施工しました。

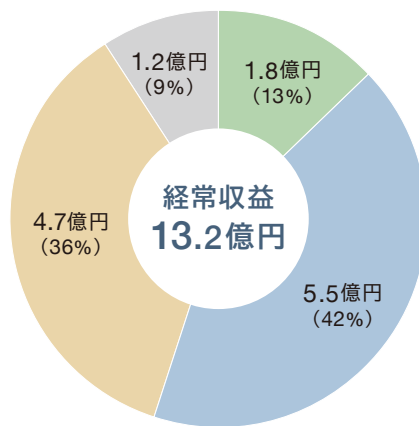


財務概況

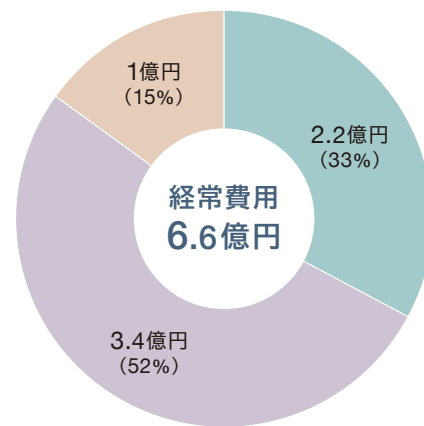
当財団は、資産の90%をトヨタグループ各社の株式で保有しており、経常費用については、ほぼその配当収益によって賄っています。



- 基本財産(株式)
- 公益目的財産(株式)
- 公益目的財産(債券)
- 運営目的財産(株式)
- 建物・設備等
- その他



- 基本財産運用益
- 公益目的財産運用益
- 運営目的財産運用益
- その他



- 公益目的事業(研究)
- 公益目的事業(助成)
- 運営目的事業(運営)



トピック

オフィシャルサイト

豊田理研の活動内容や助成制度の魅力、募集情報などをわかりやすく紹介しています。



VISIT OUR WEBSITE »



公益財団法人
豊田理化学研究所 アニュアルレポート 2025 2026年7月発行
発行／公益財団法人 豊田理化学研究所 愛知県長久手市横道41番地の1
編集／アニュアルレポート2025編集委員会 印刷・製本／大日本印刷株式会社



公益財団法人
豊田理化学研究所



公益財団法人豊田理化学研究所ウェブサイト
<https://www.toyotariken.jp>



豊田研究報告
<https://www.toyotariken.jp/research-report>

